

20190430 シュンランについて

三谷の代表的な山野草として、毎春その開花に親しんできたシュンランについて整理してみたい。
これは日本全国（北海道から九州まで）に分布し、日本を代表する野生ランの一つである。

1. 里山や人里に近い山地の雑木林などに自生し、古くから季節の花や祝いの花として親しまれてきた。
2. 葉は地表から出る根出葉（根生葉ともいう：地上茎の基部についた葉で、地中の根から葉が生じているように見える。）で、細長く薄いが固く、根本から立ち上がる。細かな鋸歯があり、ざらつく。
3. 茎は球形に縮まった偽球茎とよばれて、古い偽球茎の根元から出て株立ちになる。
4. 緑葉による光合成以外に、菌根共生を送る腐生菌から、有機物の供給を受ける部分的菌従属栄養植物である。（菌根共生している。）
5. 花期は3～4月。他の花に比べても開花している時間が長いという印象が強い。
2017年度の特定期観察対象種として詳しく経時変化の記録を残している。（火曜班担当の記録参照）
6. 花茎は薄膜状の鱗片に包まれて、花は横を向いて咲く。
7. 萼片と側花弁は黄緑色でつやがあり、形状は複雑で特徴がある。花びらに紫色の斑点がある。
8. 種子は極めて小さく、ほこりのように見える。
9. シンビジウムの仲間である。
10. シュンランの花言葉は「気品」「清純」「控えめな美」「飾らない心」
11. 日本と中国に自生する常緑の多年草である。花後にも林間で緑葉を見つけることができる。
12. 名前の由来は春に花をさかせることから
13. 種が発芽するときに、菌類の菌糸から栄養を取り、根を大きくするために、長期間地下生活を送る。
14. このため種から育てることは難しく、園芸に用いるときは、自然に生えたものを採取する「山採り」が行われてきたが、自然保護とモラルの観点から「山採り」を行わず、人工交配による株が流通している。
15. 2016年3月11日に京都植物園内で「京都山草会」の人たちがシュンランの鉢植えを展示していた。
三谷の自然に比べて開花が早いし、どのように育て、開花させたものか興味を引いたが、真相はわからなかった。
16. シュンランの鉢植えの植え付けは4～6月がよいとされる。
17. 鉢植えのシュンランは根詰まりを防ぐために、2～3年に一回、植え替えするのがよいといわれる。



キトラで見つけた大きな株のシュンラン 20180320

（ヲガマ田ではまだ開花していないのに早い）